

「桜」検査終結

国会で説明責任果たせ

時の首相が内閣の公的な行事を私物化する。1年近くにわたり、国会で「虚偽」答弁を繰り返す。訴追されなかつたとはいえ、安倍元首相の政治責任は重大。今に至るも説明責任を果たしていない」とは不誠実極まる。「のまほの舞引きは許されない。安倍氏は改めて国会の場で、残る疑問に答えるべきだ。安倍氏の後援会が主催した「桜を見る会」前夜祭の費用補填をめぐり、検察審査会の「不起訴不当」の議決を受けて再検査していた東京地検特捜部が昨年末、安倍氏を再び不起訴処分とした。補填が選舉区内での違法な寄付にあたるとする公職選挙法違反など1つの容疑が対象だったが、しだいこの件での安倍氏への検査は終結した。

検査の議決は、関係者の供述だけでも、「メール等の密観的資料も入手」して判断すべきだつたなど、十分な検査が尽くされただけに、国会での厳しい追及が続々中、なぜ秘書の言ふ分を

れたとは言い難いという厳しい指摘だった。検察は改めて不起訴とした理由について、「十分な証拠が得られなかつた」と説明したが、再検査の具体的な内容に触れるとはなかつた。どうまで徹底した調べが行われたのか、釈然としない。

安倍氏は1回目の不起訴の際は記者会見を開いたが、今回は「厳正な検査の結果、不起訴と決定されたものと受け止めていい」と、短いコメントを出しただけだった。進んで事の顛末を明らかにし、国民の納得を得たいといふ姿勢はうかがえない。

桜を見る会をめぐり、安倍氏が公の場で説明をしたのは一昨年末の衆参両院の議院運営委員会が最後だ。補填はなかつたという過去の答弁を訂正したが、秘書の独断であつて、自分で知らなかつたと弁明した。

うのみこし続けたのか、そもそも収支報告書に記載しなかつたのは、「どんな判断からかな」、腑に落ちない点が多かつた。ホーリーの明細書や領収書などの提出にも一切応じてない。

そして、はじめをあいまいにしたまま、自民党内最大派閥の領袖となり、党の機関やわざなど活動を活発化させてくる。118回に及ぶ「虚偽」答弁で、立法府の行政監視機能を振り崩した事態の深刻さを踏まえれば、証人喚問など国会の場で説明責任を尽くすことが先だ。

岸田首相も、政治への信頼回復を掲げるなり、「自らの内閣では開催しない」と書いて済ますのではなく、安倍氏にきちんと説明するよう求めるべきだ。友好的な関係を維持したいといふ内向きの論理で、安倍氏の責任の棚上げに手を貸すよりは、